

私の好きな十首

第162号（七月号）より

大成 健次

パレスチナを知りたく歴史ひもとけば二千年前の「ガザ」に行きつく

河野 徳子

金平糖ねだりつつ息絶ゆる姉六歳 その地に残る子供あまと

中山 厚子

三月の夜空に忘れぬ黒き機影あまたの下町火の海とすを

近藤千枝子

辛いとき疲れたときにいつだってあなたは私のオアシスだった

松浦 晴男

ただ一度ごめんと母に謝ったわかつとるでええと言ってくれた

鈴木 稔朗

戦後の冬おしんの大根めしあらば米粒見ゆと喜ばれしか

きさらぎあいこ

このベッドに馴染んで寝ようその日までときには過ぎし日の夢をみて

伊吹 純

コロナ禍に逝きたる姉の三回忌雪サツサツと傘にふりくる

棚橋 好江

木支柱、米の苗箱、お米等運びし記憶が右肩に残る

佐藤 明美

門に立ち見えなくなるまで見送りぬかつては父を今は息子^{みこ}を

篠田 理恵

過去と繋がる歌を選んだが、多くて無理遣り十首に。一首目、歴史を紐解いた歌。一連充実。

二首目、引き揚げ時の悲歌。残る子は死して中には生きて。三首目、東京大空襲の光景は今も。

四首目、オアシスだったあなたが温かい。五首目、母子ならではの歌。六首目、戦後は如何にひ

もじかったか。七首目、みる夢は絶対楽しかった夢。八首目、コロナでの三回忌、傘にサツサツ

が切ない。九首目、右肩に感謝。十首目、節目の歌か。例えば、父は出征、子は独立とかの。